



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/10 (月)	+ 500	+ 600	+ 1,100	国庫短期証券発行・償還 (3M・6M)	国債補充供給 + 39,700 CP等買入 ▲ 300		日：さくらレポート 貿易収支 (5月)
7/11 (火)	トシ	▲ 15,000	▲ 15,000	源泉税揚げ			
7/12 (水)	▲ 1,000	▲ 43,000	▲ 44,000	国債発行(5年) 源泉税揚げ 労働保険揚げ			日：国内企業物価指数 (6月) 米：CPI (6月)
7/13 (木)	▲ 1,000	▲ 5,000	▲ 6,000				米：PPI (6月)
7/14 (金)	▲ 2,000	▲ 9,000	▲ 11,000	国債発行 (20年)			

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は国債の発行等により週初三日、前営業日比▲1兆7,700億円の542兆6,800億円から始まった。その後は減少要因として税・保険揚げや国債の発行等があり536兆3,100億円 (速報) まで減少して越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初▲0.071%から始まった。その後は、積み期後半に入るなか、様々な業態において積み最終日に向けた積極的な調達が見られた。そのため同金利は、4日から6日まで▲0.060%~▲0.016%と上昇基調を辿った。週末となる7日においても資金調達ニーズは堅調であり、同金利は▲0.012% (速報) とさらに上昇した。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.060%~▲0.010%程度の水準で出合が見られた。

来週の予定は、国内では10日にさくらレポート、12日に国内企業物価指数 (6月) の公表があり、海外では12日に米CPI (6月)、13日に米PPI (6月) の公表がある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

## &lt;レポ&gt;

足許GCは週初▲0.08%近辺から出合い始め、週央まで▲0.08%~▲0.07%で推移した。

6日の取引では▲0.08%から出合い始め▲0.06%台まで上昇。短国の発行が重なる7日の取引は、▲0.06%台の出合いが中心となった。

SC取引は2年438~449回債、5年149~158回債、10年350~371回債、20年180~184回債、30年65~79回債、40年13~15回債などに引合いが多く見られた。

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約1兆815億円で、週間償還額 (約3,300億円) を上回った。発行市場は、期明けの発行再開に伴い鉄鋼や食品等の業態で大型発行が行われた。

発行残高は先週末時点の23兆4,666億円から6日時点で26兆2,712億円に増加した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の償還額は、約7,600億円となっている。発行市場は、良好な発行環境が継続している他、5・10日発行が予定されるため相応の発行が見込まれる。発行レートは、浅いマイナスから0%近辺での出合いが見込まれる。11日に、CP等買入れオペが4,000億円でオフアされる予定となっている。

## &lt;TDB&gt;

6日の6M (1167回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1744% (前回債▲0.1563%)、平均落札利回り▲0.1843% (前回債▲0.11683%) となり、7日の3M (1168回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1209% (前回債▲0.1162%)、平均落札利回り▲0.1356% (前回債▲0.1283%) となった。来週は7月14日に3Mの入札が予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。